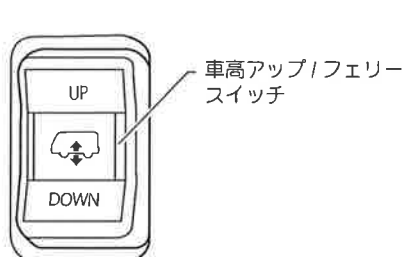


車いすリフト★

■ 各部の名称

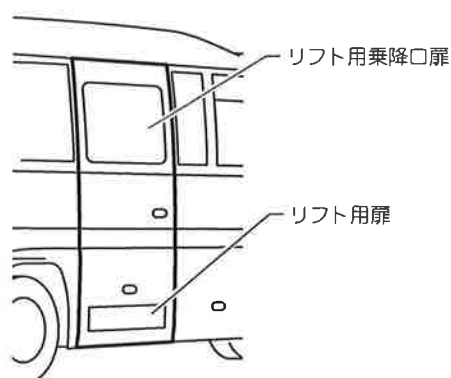
〔運転席周り〕



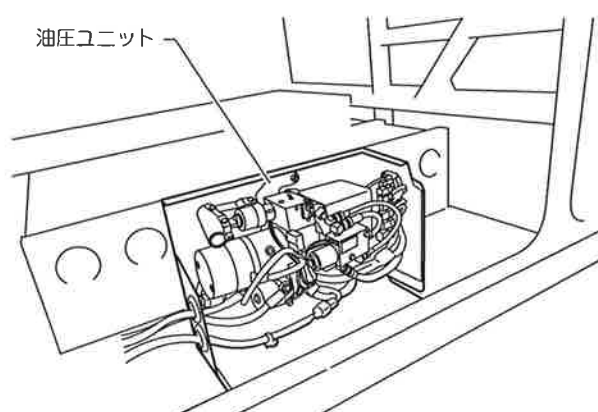
※取り付け位置は、絵で見る目次-3～6ページを参照してください。

※ スイッチの装着位置はお車の仕様により異なります。

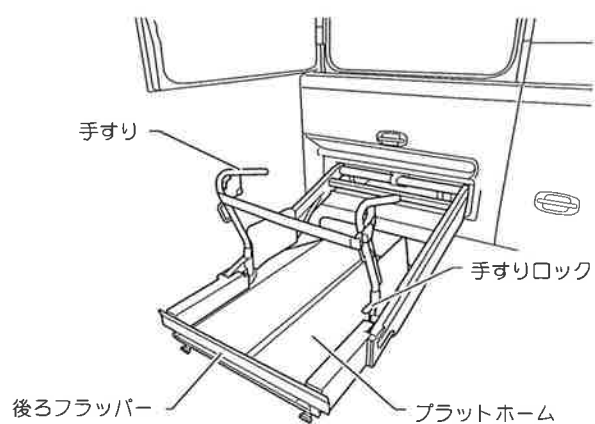
〔リフト用扉部〕



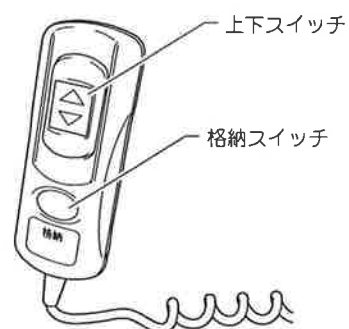
〔油圧ユニット部〕



〔車いすリフト本体〕



〔リモコン部〕



■ 車いすリフト★の使い方

⚠ 警告

- 車いすでの車内の移動・車いすの固定および車いすリフトの操作は、必ず停車中に乗務員が行ってください。車いすに乗ったままの状態で乗客自身が操作すると、手や足をはさんだり、車いすが転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすリフトを操作するときは、車両を平坦で安全な場所に停車し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。不整地や傾斜地で操作すると、車いすリフトの故障につながるばかりでなく、プラットフォームが着地したときに傾いて、プラットフォーム上の車いすが動きだし、車いすの方が転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすリフト内に物が置かれていないこと、車いすリフトの作動範囲に人がいないことを確認してください。また、車いすリフトから十分に離れて操作してください。車いすリフトと車両の間で手や足などをはさんだり、物が破損するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車いすリフトの定格荷重能力は300kgです。
- 車いす専用の昇降装置ですので、その他の荷物は載せないでください。定格荷重の300kgを超える積載はリフトの破損や降下などで重大な事故のおそれがあり危険です。

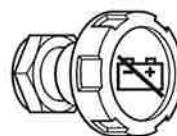


アドバイス

車いすリフトを操作するときは、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンをかけて行ってください。

■ 車いすリフトを操作する前の準備

1. 操作は平坦な場所で行います。
2. 車の周りに人がいないこと、障害物がないことを確認します。
3. パーキングブレーキを確実に効かせ、チェンジレバーまたはギヤセクターを「ニュートラル」の位置にします。
4. 運転席のバッテリーリレースイッチを引いて「ON」にし、スターターキーを回してエンジンをかけます。

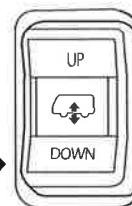


ON
引く

BE049-016G

* 取り付け位置は、絵で見る目次 -3 ページを参照してください。

5. 車高アップ/フェリースwitchの「DOWN」側を押します。



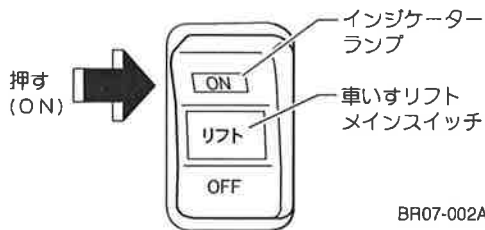
ダウン

BE063-009G

* 取り付け位置は、絵で見る目次 -3 ページを参照してください。

* 車高が完全に下がったことを確認してください。

6. 車いすリフトメインスイッチの「ON」側を押します。(内蔵のインジケータランプ点灯)



- * 取り付け位置は、絵で見る目次 -6 ページを参照してください。
- 7. 客室のスライドシートをスライド位置に移動させ、車いすのスペースを確保します。
- * シートのスライドのしかたについては、4-9 ページを参照してください。
- 8. リフト用乗降口扉を開けてください。



9. リフト用扉を開けてください。

■ 車いすリフトの操作のしかた

- * 車いすリフトを操作するときは、下記の点に注意してください。
- 車いすリフトは 300kg 以下の荷重で操作してください。
- 車いすリフトの折りたたまれる部分やその付近には手や足を出さないでください。
- 車いすリフトの操作中は、作動範囲に人を近づけないようにしてください。

▶ 車いすリフトの操作のしかた

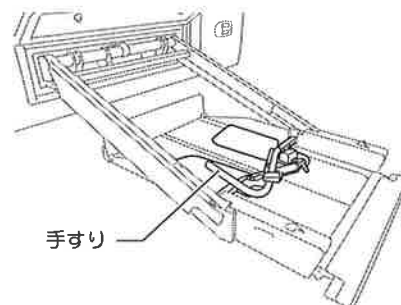
⚠ 警告

- 車いすリフトの操作は、必ず停車中に乗務員が行ってください。車いすに乗ったままの状態で乗客自身が操作すると、手や足などをはさんだり、車いすが転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 車いすリフト内に物が置かれていないこと、車いすリフトの作動範囲に人がいないことを確認してください。また、車いすリフトから十分に離れて操作してください。車いすリフトと車両の間に手や足などをはさんだり、物が破損するなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1. リモコンのコネクターを接続します。



2. 車いすリフト左右にある手すりを、しっかりとロックするまで、手前に起こします。



⚠ 警告

手すりを起こすときは、開いているリフト用乗降口扉に頭をぶつけるなどして、思わぬけがの原因になるおそれがあるため、周囲の状況に十分注意してください。

▶ 車いすリフトの下降のしかた (展開位置から地面への下降)

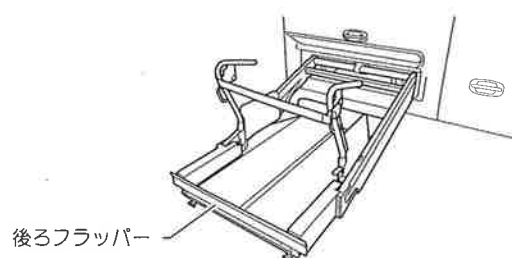
1. 車いすリフトの安全ベルトのタングをバックルに「カチッ」とロックするまで差し込みます。



2. リモコンの上下スイッチ「DOWN」側を、車いすリフトが着地するまで押し続けます。



* 車いすリフトが完全に着地し、後ろフラッパーが開いていることを確認してください。



⚠ 警告

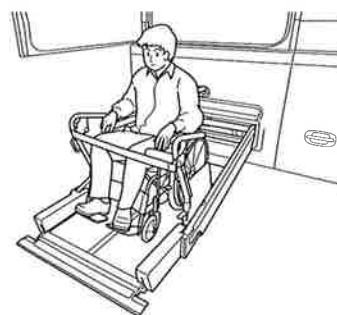
車いすリフトは完全に接地するまで下げてください。浮いている状態では、車いすの乗降時にプラットフォームがゆれ、転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 車いすの乗客をプラットフォームへ移動させる

⚠ 警告

プラットフォームまたは車いすの車輪に水分や油分が付着していると、車いすのブレーキが滑って効きにくくなったり、車いす自体が滑るなどして思わぬケガをするおそれがあります。プラットフォームや車いすのタイヤに水分や油分が付着している場合は、拭き取ってください。悪天候時（降雨・降雪時）は特に注意してください。

1. 車いすの正面が、必ず車外側を向くようにして（車両を背にして）プラットフォームにゆっくりと移動させます。



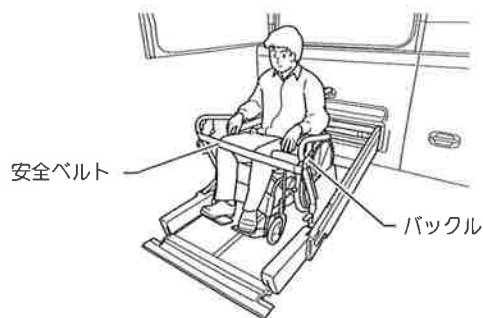
2. 車いすがプラットフォーム中央部の安全な位置にまで移動したら、車いすのブレーキをかけます。（電動車いすの場合は、車いすの電源スイッチを「OFF」にします）

* このとき、車いすがプラットフォーム外側の端からはみ出していないこと、後ろフラッパーの動きを妨げていないことを確認します。

⚠ 警告

プラットフォーム上へ車いすの移動が完了したら、車いすのブレーキを確実にかけてください。また、電動車いすの場合は、車いすの電源スイッチを「OFF」にしてください。車いすのブレーキをかけず（または車いすの電源スイッチを「OFF」にせずに）車いすリフトを作動させると、車いすが動くなどしてプラットフォームから転落するなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

3. 車いすリフトの安全ベルトのタングを、バックルに「カチッ」とロックするまで差し込みます。



アドバイス

プラットフォーム上へ車いすの移動が完了したら、車いすリフトの安全ベルトを必ず締めてください。

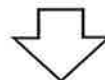
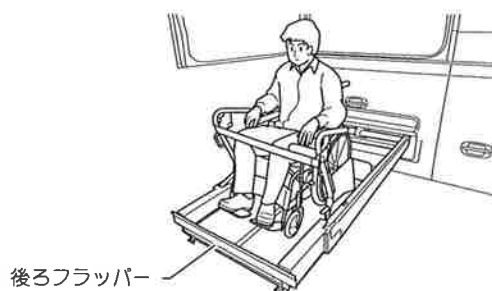
安全ベルトを締めないと、車いすリフトが昇降動作しない構造になっています。

▶ 車いすリフト上昇のしかた

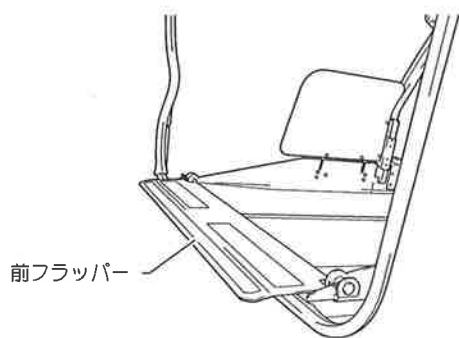
- * 車いすリフトを上昇させ車内に車いすの乗客を移動させる操作を行う際は、あらかじめ車内のシートをスライドおよび跳ね上げてください。シートのスライドおよび跳ね上げかたについては、4-9 ページを参照してください。
- リモコンの上下スイッチ「UP」側を、車いすリフトの上昇が止まるまで押し続けます。



- * リモコンの上下スイッチ「UP」側を押すと、後ろフラッパーが自動的に車体側へ閉じ、車いすリフトが上昇します。

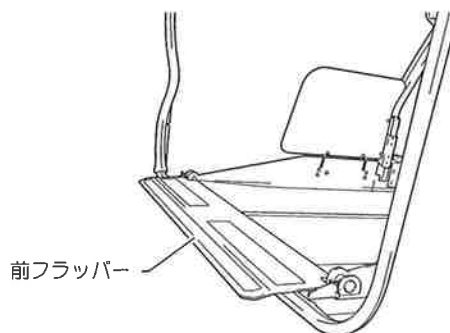


* 車いすリフトが完全に上がりきり、前フラッパーが車内側へ開いている事を確認してください。



● 車いすの乗客をプラットフォームから車内へ移動させる

1. プラットホームの前フラッパーが車内側へ開いていることを確認し、車いすのブレーキをゆっくりと解除して（電動車いすの場合は、車いすの電源スイッチを「ON」にして）車内へ移動します。



2. 移動が完了したら、車いすブレーキをかけ（電動車いすの場合は、車いすの電源スイッチを「OFF」にして）、車いすを確実に固定します。

* 車いすの固定のしかたについては、4-19 ページを参照してください。

⚠ 警告

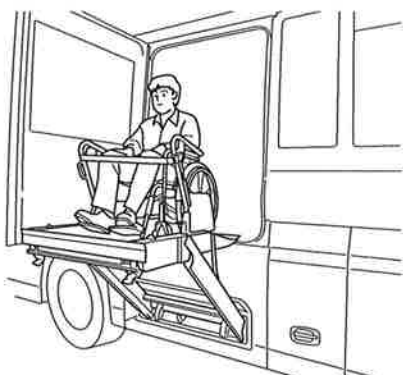
車いすが、固定ベルトに確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中に車いすが動きだし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 車いすの乗客を車内からプラットホームへ移動させる

車いすの乗客を車内からプラットホームへ移動させる際は、下記について確認してください。

- ・ プラットホームの前フラッパーが車内側へ開いていること
- ・ 後ろフラッパーが車内側に閉じてロックしていること
- ・ 安全ベルトが確実に締めてあること
- ・ 前フラッパーの上に、人や物が乗っていないこと

1. 車いすの正面が、必ず車外側を向くようにして（車両を背にして）プラットホームにゆっくりと移動させます。



2. 車いすがプラットホーム中央部の安全な位置に移動したら、車いすのブレーキをかけます。（電動車いすの場合は、車いすの電源スイッチを「OFF」にします）

* このとき、車いすがプラットホーム外側の端からはみ出していないこと、後ろフラッパーの動きを妨げていないことを確認します。

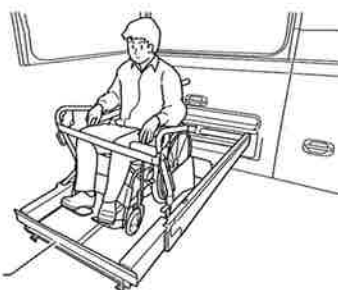
3. プラットホーム上へ車いすの移動が完了したら、車いすリフトの安全ベルトが確実に締めてあることを確認してください。（安全ベルトを締めないと、車いすリフトが昇降動作しない構造になっています）

▶ 車いすリフトの下降のしかた（上昇位置から地面への下降）

- プラットホームの安全ベルトが締まっていることを確認し、リモコンの上下スイッチ「DOWN」側を、車いすリフトが着地するまで押し続けます。



* 車いすリフトが完全に着地し、後ろフラッパーが開いていることを確認してください。

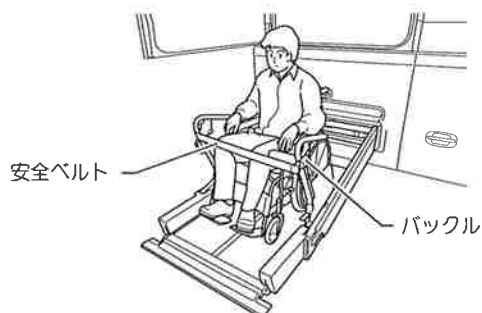


⚠ 警告

車いすリフトは完全に接地するまで下げてください。浮いている状態では、車いすの乗降時にプラットホームがゆれ、転倒するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● 車いすをプラットフォームから地面へ降ろす

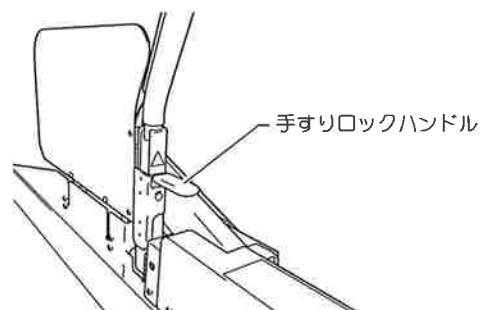
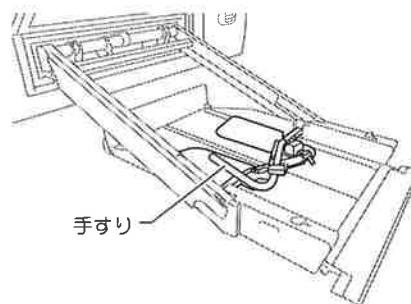
1. 安全ベルトを外します。



2. 車いすのブレーキをゆっくりと解除します。(電動車いすの場合は、車いすの電源スイッチを「ON」にします)
3. 車いすの正面が、必ず車外側を向くようにして(車両を背にして)プラットフォームから地面へゆっくりと移動させます。

▶ 車いすリフトの格納のしかた

1. 車いすリフト左右の手すりの下部にある手すりロックハンドルを、上に引いてロックを解除し、手すりを車いすリフト内側に折りたたみます。



2. リモコンの格納ボタンを車いすリフトが完全に格納されるまで押し続けます。



- * 車いすリフトが完全に上がりきり、前フラッパーが車内側へ開いている事を確認してください。
- * 手動ポンプハンドルは、操作後確実に油圧ポンプユニットカバー内側に格納してください。

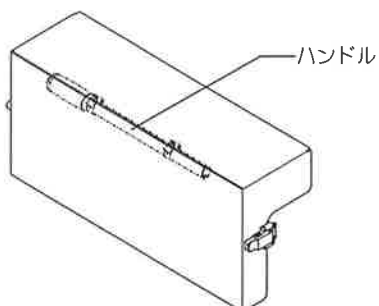
■ 非常操作方法

万一、使用中にリフトが上昇／格納できなくなった場合、以下の手順で手動格納が可能です。

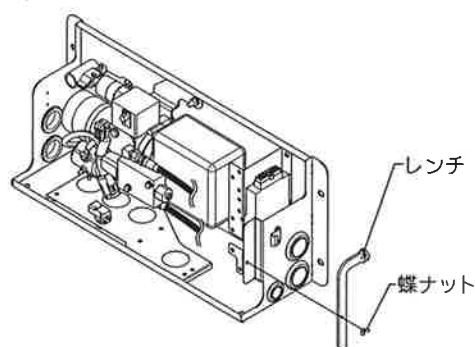
停止した状況に合わせて正しく操作してください。操作後はすみやかに最寄りのいすゞ販売会社で点検・整備を受けてください。

▶ 下降操作（非常時）

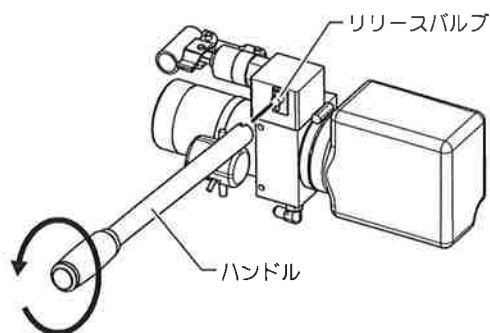
1. 車いすリフトメインスイッチを「OFF」にする。
2. ユニットカバーからハンドルを取り出す。



3. ポンプユニット側面の蝶ナットを外し、レンチを取り外す。



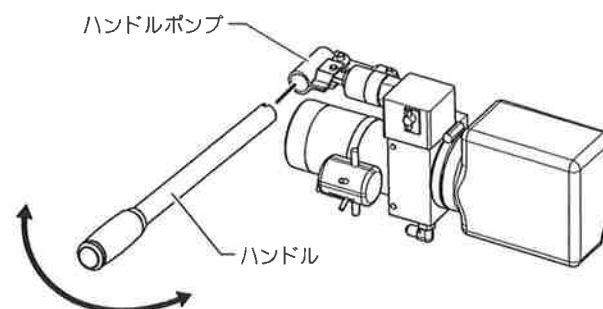
4. ハンドルをリリースバルブに差し込む。
5. ハンドルを左にゆっくり回し、リリースバルブを開き、リフトを下降させる。



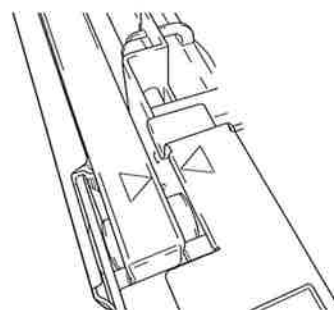
6. プラットホームが着地したら、ハンドルを右に戻し、リリースバルブを閉める。
7. プラットホームから乗降者を降ろす。

▶ 上昇操作（非常時）

8. ハンドルをハンドポンプに差し込む。



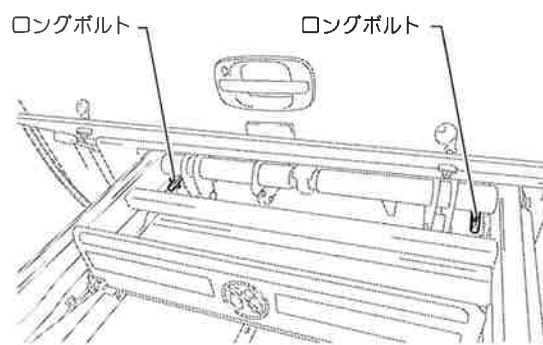
9. ハンドルを左右に繰り返して動かし、リフトを少しずつ上昇させる。
10. プラットホームを格納高さ（アームとプラットホームが水平になる位置）まで上昇させる。



11. 車いすリフトメインスイッチを「ON」にして、操作スイッチの「格納」ボタンで格納する。

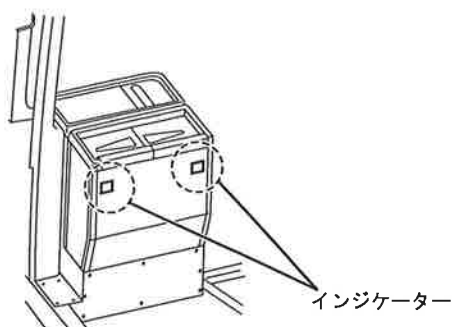
[手順 11. ができない場合]

12. 車いすリフトメインスイッチを「OFF」にする。
13. 左右の手すりをたたむ。
14. スライダー前面のロングボルト 2 本をレンチ 12 で 2 ～ 3 回転ゆるめる。

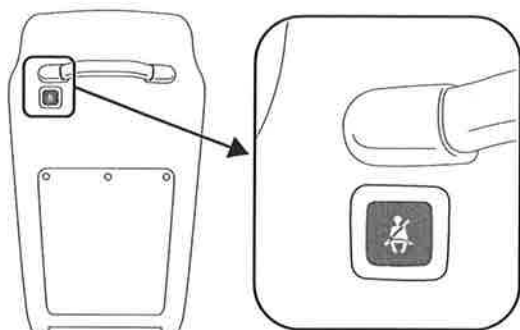


15. ゆるめたロングボルトを斜め方向に 10mm 引き上げ、手締めする。
16. 手締めしたロングボルト 2 本をレンチ 12 で締める。
17. 後ろフラッパー裏面に両手を当て、プラットホームをゆっくり押し込む。

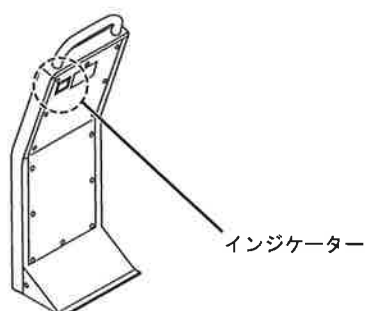
〔客席最前列：冷蔵庫〕



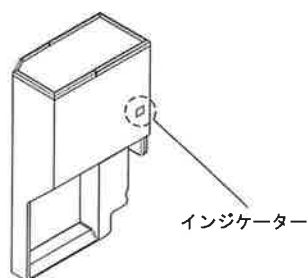
〔最前列以外の客席〕



〔飛出し防止仕切〕



〔中間キャビネット〕



知識

- 客席シートベルト未装着警報ランプがショートしている場合、操作スイッチを ON すると操作スイッチ内のインジケータが点滅します。

車いす固定装置★

- * 車いす固定装置を使用するときは、あらかじめレールカバーを取り外し、一部のシートをスライドおよび跳ね上げてください。
- * レールカバーの取り外しかた、シートのスライドおよび跳ね上げかたは 4-9 ページを参照してください。

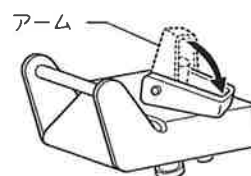
警告

- 車いすを固定するときは、必ず平坦な場所に停車し、パーキングブレーキを確実に効かせてください。車いすが動き出し、ケガをするおそれがあり危険です。
- 車いす固定ベルトおよびシートベルトがねじれておらず、車いすが確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと走行中に車いすが動き出し、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 車いすの固定のしかた

▶ 固定金具の取り付けかた

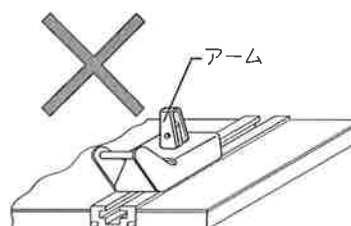
1. 固定金具のアームを倒します。



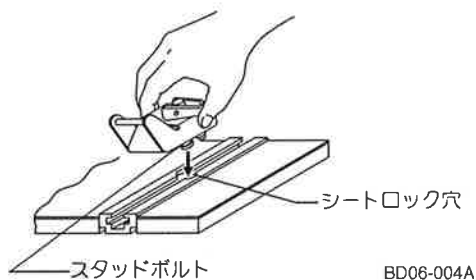
BD06-003A

警告

必ず固定金具のアームを倒してください。固定金具のアームを立てた状態にしていると、万一の事故などにより衝撃を受けた場合、固定金具がずれてベルトにゆるみが発生し、走行中に車いすが動きだし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

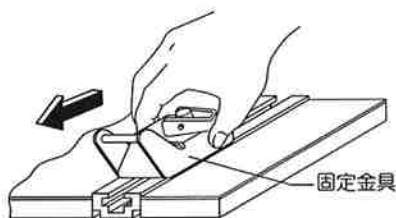


2. 固定金具下側のスタッドボルトをレール側のシートロック穴（丸穴）より挿入します。



BD06-004A

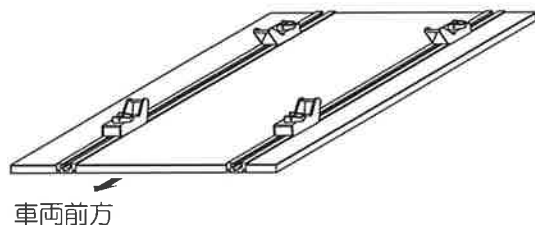
3. 固定金具を下側（床面）に押しながら前方へスライドさせ、スタッドボルトがシートロック穴に落ち「カチッ」と音がするまで確実に固定します。



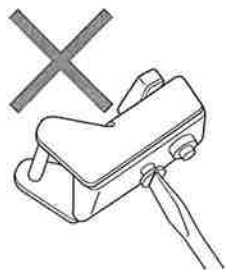
BD06-006A

4. 固定金具が前後にスライドしないことを確認してください。

- * 固定金具を取り付ける際は、それぞれを下図の向きで取り付けてください。



- * スタッドボルトは出荷時に調整してあります。調整は最寄りのいすゞ販売会社にご相談ください。



BD06-005A

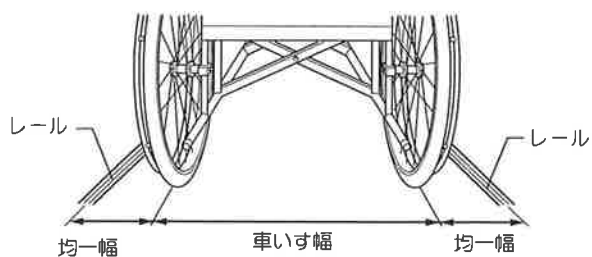
▶ 車いす固定ベルトの取り付けかた

⚠ 警告

- 乗務員以外には車いす固定ベルトの操作、取り扱いをさせないでください。手や指をはさむなどして、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- 車いすのベルト固定は、走行前に必ず行ってください。また、車いす固定ベルトがしっかり締まっていることを確認してください。車いす固定ベルトがゆるんでいると走行中に車いすが動き、転倒のおそれがあります。
- 車いすを固定するときは、ベルトにねじれがないことを確認してください。衝突したときなどに衝撃力を十分に分散させることができずケガをするおそれがあります。
- 一度強い衝撃を受けた車いす固定ベルトは使用しないでください。また、ベルト部分に傷がついたり、破れたりしている車いす固定ベルトは、機能を十分発揮しないことがあります。ベルトは定期的に点検し、万一の事故などにより衝撃を受けたり、傷がついた場合は、新品に交換してください。
- 車いす固定ベルトの汚れは、中性洗剤を用いて洗い落としてください。ガソリン・シンナーなどの揮発剤は、シートベルト地を著しく弱める原因になりますので絶対に使用しないでください。
- 車いす固定ベルトは車いす本体の固定装置ですので、車いす固定以外の目的で使用しないでください。
- 車いすを固定しないときは、取り外し保管してください。

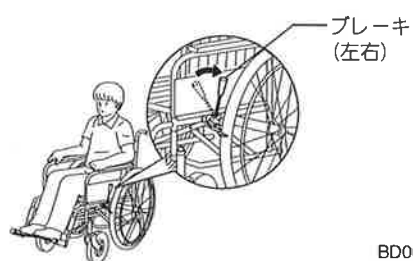
- * 車いす固定ベルトの取り付けは、必ず乗務員が行ってください。

1. 車いすの左右のタイヤを床側のレールに合わせ、固定金具間のほぼ中央に止めます。



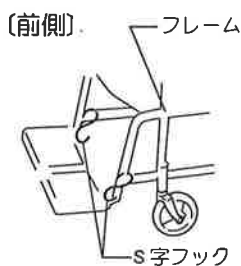
BD06-009A

2. 車いすのブレーキ（左右）をかけます。（電動車いすの場合は、車いすの電源スイッチを「OFF」にします。）

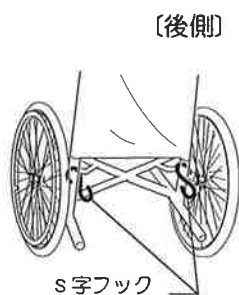


BD06-010A

3. 車いすのフレーム（前後各2カ所）にS字フックを掛けます。

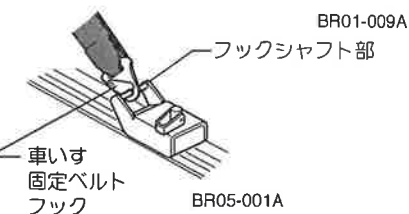
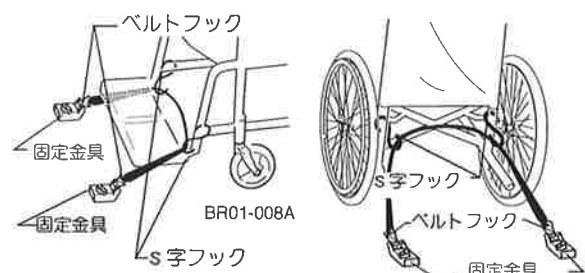


BQ06-019A



BQ06-021A

4. 車いす固定ベルトをS字フックに掛け、ベルトフックを、固定金具のフックシャフト部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。



BR01-009A

BR05-001A

* 車載の固定金具、固定ベルトおよびS字フック以外は使用しないでください。

5. 前後共、車いす固定ベルトを引いてゆるみがないように調整します。

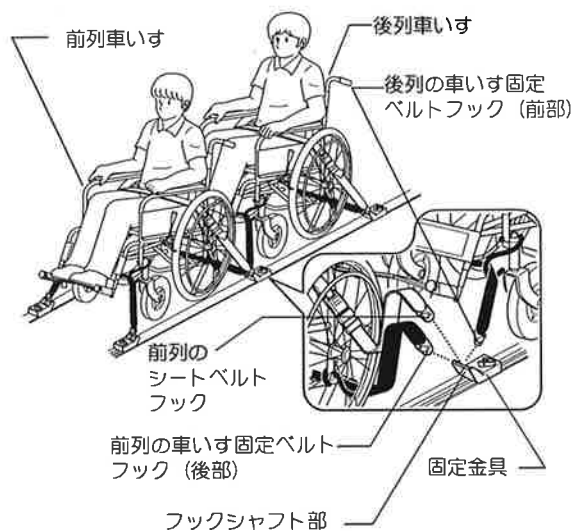


BD05-021A

▶ 車いすを 2 台固定する場合

車いすを縦列に 2 台固定する場合は、下記要領にて固定します。

- 中央の固定金具（左右 2 か所）のフックシャフト部に、前列の車いす固定ベルトフック（後部）とシートベルトフック、後列の車いす固定ベルトフック（前部）を掛けます。



* 固定金具については 4-19 ページ，車いす固定ベルトについては 4-20 ページ，車いすシートベルトについては 4-22 ページを参照してください。

■ 車いすシートベルトの着用のしかた

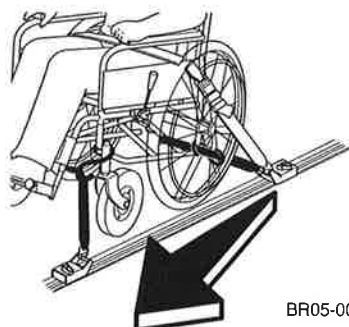
⚠ 警告

- 乗務員以外には車いすシーベルトの操作，取り扱いをさせないでください。手や指などをはさむなどして，重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトは，走行前に必ず着用してください。ベルトを着用しないと，万一の事故のときや急ブレーキをかけたときに生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。
- シートベルトは車いすのアームレストの下側およびリムの間を通して着用してください。アームレストの上側を通すと，ベルトが腰骨の位置からずれ，衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受けケガをするおそれがあり危険です。
- 万一事故を起こした後は，必ずシートベルトを新品に交換してください。外観上に異常がなくても正常に作動しないことがあります。軽い衝撃でも最寄りのいすゞ販売会社で点検を受けてください。
- ベルトを正しく着用しないと，万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。着用するときは，以下のことを必ずお守りください。
 - ・ シートベルトにねじれがないことを確認してください。衝突したときなどに衝撃力を分散させることができず，ケガをするおそれがあります。また，ねじれた状態で使用を続けるとベルトが破損するおそれがあります。
 - ・ シートベルトをクリップなどでゆるめないでください。ベルトの機能が低下し危険です。
- 妊娠・疾患のある方がシートベルトを着用するときは，かかりつけの医師と相談してから使用してください。衝突のときなど腹部に強い圧迫を受けるおそれがあります。
- バックルの中に異物を入れないでください。ベルトが正常に機能せず，万一のとき重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

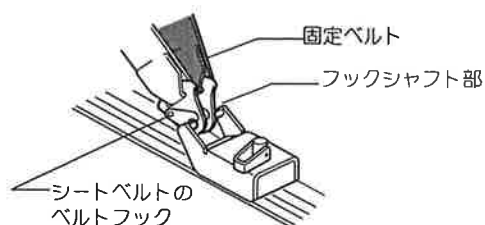
⚠ 警告

- シートベルトの汚れは中性洗剤を用いて洗い落としてください。ガソリン・シンナーなどの揮発剤は、シートベルト地を著しく弱める原因になりますので絶対に使用しないでください。
- シートベルトを使用しないときは、必ず取り外して保管してください。ベルトが床面に放置されていると、つまずいたりするなどケガにつながるおそれがあります。

1. バックルが付いているシートベルトを窓側へ、タングが付いているシートベルトを通路側へセットします。
2. 固定金具のフックシャフト部にシートベルトのベルトフックを掛け、「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。



BR05-002B



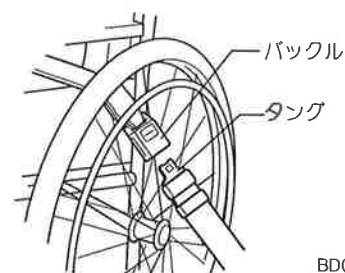
BR05-006A

3. バックルを車いすのリム間およびアームレストの下を通します。



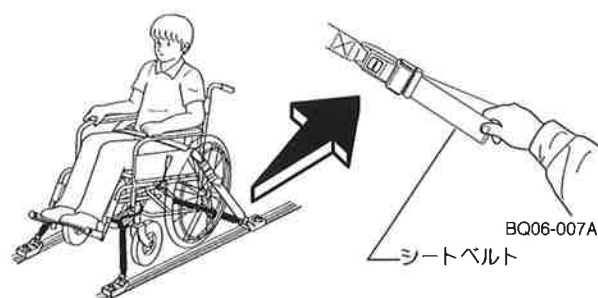
BD06-034A

4. ベルトがねじれないようにタングをバックルに、「カチッ」と音がするまで確実に差し込みます。



BD06-035A

5. シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用し、シートベルトを引いてたるみがないように調整します。



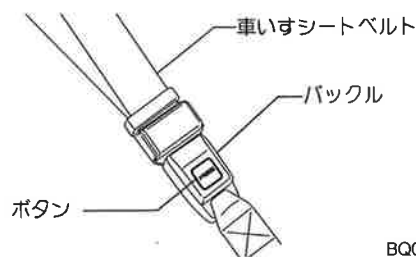
BD05-002A

BQ06-007A

シートベルト

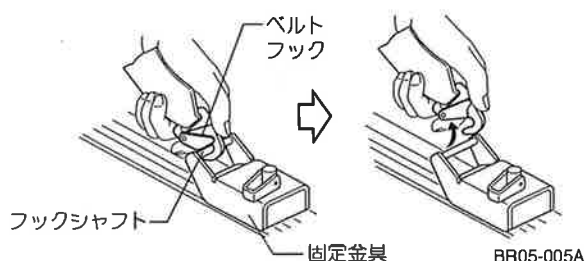
■ 車いすの固定ベルト・シートベルトの取り外しかた

1. 車いすシートベルトのバックルのボタンを押して、ベルトを外します。



BQ06-015A

2. 車いす固定ベルト・シートベルトのベルトフックを固定金具のフックシャフトより取り外します。



BR05-005A

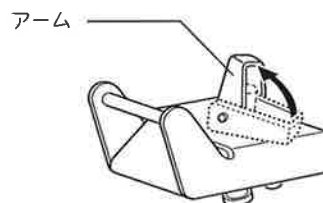
3. 全てのベルトおよびS字フックを取り外します。

⚠ 警告

車いす固定ベルト・シートベルトを使用しないときは、保管してください。ベルトが床面に放置されていると、つまずいたりするなどケガにつながるおそれがあります。

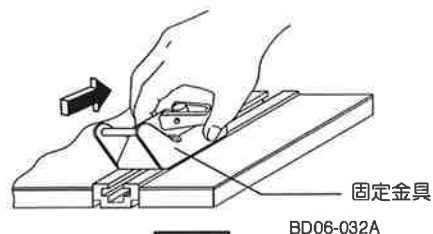
▶ 固定金具の取り外しかた

1. 固定金具アームを起こします。

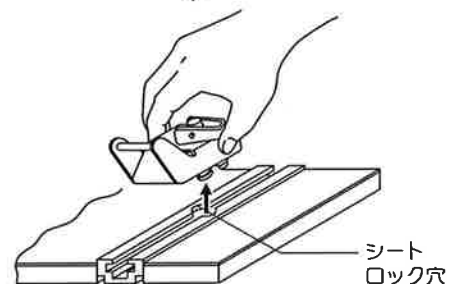


BD06-031A

2. 固定金具を下側（床面）に押しながら後方へスライドさせ、シートロック穴から取り出します。



BD06-032A



BD06-033A

- * 固定金具を取り外した後は、スライドおよび跳ね上げたシートを元の標準位置に戻し、レールカバーを取り付けてください。

スライドおよび跳ね上げたシートの標準位置への戻しかたは 4-11 ページ、レールカバーの取り付けかたは 4-12 ページを参照してください。

⚠ 警告

固定金具を使用しないときは、必ず取り外して保管してください。ベルトが床面に放置されていると、つまずいたりするなどケガにつながるおそれがあります。